令和４年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和４年４月１４日（木）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立清水台小学校

■国語科

品川区立清水台小学校
令和４年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
総合的には、全国値をほぼ上回ることができ、基本的な国語力は身に付いてきていると思われる。一方で「書くこと」に課題のある学年が多く見られる。読解力を付けるとともに、様々な場面、状況に合わせた記述活動を取り入れ、反復練習をさせていく必要がある。

■学年ごとの具体的な課題（・）原因（◎）と解決策

◆２年生◆
・「文章を書く」問題が２クラスとも目標値を下回った。経験したことから書くことを見付けたり、文を１文以上書いたりする問いの正答率が低い。
・説明文を読んで全体の内容を理解した上で答える問題の正答率が低い。
◎何を聞かれているのか、どう答えればいいのかを問題文から読み取れていない。また、読み解くのに時間がかかるため、最後の問題まで取り組めていない。

◆３年生◆
・全体的に全国平均や区平均を上回る項目が多いものの、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域で区平均を下回っている項目が目立った。（特に、「話を聞きとる」、「文章を書く」に関する項目）
◎学習内容を知識として覚えていても、それを自分なりに表現する際に活用していくことができない。
◎話し手が知らせたいことを落とさないように聞いたり、自分の思いや考えが明確になるように文章を書いたりする力が弱い。

◆４年生◆
・物語の内容を読み取る際、読んで感じたことや分かったことを共有することはできているが、場面に様子について叙述をもとに捉えることはできていない。
・情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見つけて要約することができていない。
◎叙述から離れて自分なりに読み取ってしまい文中の表現を読み取ることができない。
◎中心となる語や文を見付けて要約することが苦手で、文中の中心となる語や文を用いた表現ができない。

◆５年生◆
・既習漢字を書く問題の正答率が 66%と目標値を下回った。
・登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題の正答率が 53%と目標値を下回った。
◎反復学習が不足していた。

◆６年生◆
・漢字を書く問題の正答率が 52%と目標値を下回った。
・漢字の由来について問題の正答率が 23%と目標値を下回った。
・意図に応じて質問を工夫する問題の正答率が 44%と目標値を下回った。
◎習った漢字が定着できていない。漢字や言葉の理解が乏しい。
◎対話の技能が十分に身に付いていない。

解決策

◆２年生◆
・週末作文の宿題を確実に続ける。
・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど見聞きしたことを書く活動を増やす。
・段落ごとに重要な言葉を取り出したり、何を伝えたいのかノートに書かせたりしながら、丁寧に読む習慣を付ける。

◆３年生◆
・日頃から話の中心に気を付けて聞くことを心掛けさせ、必要に応じて要旨をまとめたり、話の内容をふり返ったりすることで、大事なことを落とさないで聞く姿勢を育む。
・自分の思いや考え、感想などを書く機会を増やし、周りと交流したり、振り返りをしたりする学習を積み重ねることで、語彙を増やし、様々な表現を学び、自分の表現に生かせるようにする。

◆４年生◆
・日々の学習や生活の中で、文章を読む際に叙述に即して場面の様子を読み取れるように確認しながら読むように促す。
・「文章の要約」の学習を通して、改めてどんな言葉が大切であるかを確認し、キーワードを用いた要約の技能を身に付けるように指導する。
・物語文や説明文の読み方の技能を高められるような学習計画を立て、指導を行う。

◆５年生◆
・ことのはノートの学習を中心にして、既習漢字の練習を繰り返し行い、作文や日記を書く際には、既習漢字を使うなど日常的に習った漢字を使っていくように指導する。
・文章中の言葉が難しいところは、繰り返し学習する。日常生活で文章を書く際、主語や述語の関係を意識して書いたり読んだりする。
・日頃から読書に取り組ませる。大事なことを落とさずに読み取れるようにする。

◆６年生◆
・計画的な漢字の学習と小テストを繰り返し行い、新出漢字の習熟を図る。
・国語の文法単元において言葉の意味や語彙の関連性の習熟を図る。
・読書指導や日記指導・作文指導を通じ、語彙の幅広い獲得に努める。
・授業内での対話の機会を増やしたり、発表への質問を伝える機会を増やしたりする。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で区値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■算数科

品川区立清水台小学校
令和４年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
２年生以上から習熟度別指導を行っている成果が表れ、全体的には全国値を上回ることができた。正答率ではどの学年もバランスはよかった。高学年では、区値を下回る領域が多かったので、正答率を上げるように授業改善を行う。

■学年ごとの具体的な課題（・）原因（◎）と解決策

◆２年生◆
・「かたち」の立体の面を写し取った絵から立体を見付ける問題の生徒率が目標値を６パーセント下回った。
・「ひきざん」の式から文章問題をつくる問題で誤答が 60 パーセントを超えている。
◎空間認識能力の低さ、平面と立体との明確な区別がついていない。
◎文章を読み取る力、記述する力が十分に身に付いていない。

◆３年生◆
・加法の結合法則を用いて式に括弧をつける問題は、誤答・無解答合わせて 40 パーセントを超えていた。
・直方体のあてはまる辺の長さを使って記述で答える問題は、誤答・無回答合わせて 50 パーセントを超えていた。
◎計算の決まりの理解が足りないとともに、できるだけ簡単に計算をしようとする意識が低い。
◎立体の辺の長さの求め方を文章で説明することができない。

◆４年生◆
・「数直線上に示された分数の読み取り」「２桁×１桁＝３桁の計算」「２桁÷１桁＝１桁（余りなし）の計算」「□を使った加法の文章題」「地図から道のりを読み取ってその和を求める」が目標値を下回っている。
◎整数や小数、分数の大きさの感覚が正しく身に付いていないことや数直線の１目盛りがいくつであるかを読み取るなどの技能が備わっていない。
◎筆算の手順が正しく理解できていなかったり、位の感覚が乏しかったりして、誤った計算をしてしいると思われる。

◆５年生◆
・表から人数の違いの求め方を説明する問題の誤答・無解答が 75 パーセントを超えていた。
・分数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明する問題の誤答・無解答が 75 パーセントを超えていた。
◎求め方を説明するための文章記述力が不足している。
◎分数を、何分の１の何個分という相対的な見方で捉えることができていない。

◆６年生◆
・正答率の度数分布が 70%と 100%の二山できている。
・基準量と割合から比較量を求める問題の正答率が目標値を下回った。
・最大公約数の問題の誤答・無解答が 60%を超えていた。
・分数を小数に変換できないことを説明する問題の誤答・無解答が 67%（無解答 47%）だった。
◎問題文の中から基準量、比較量、割合を見付けられない。
◎公約数の求め方の理解が不十分である。
◎記述で説明する練習が不足している。

解決策

◆２年生◆
・立体については、授業の中で実物に触れる活動をできる限り取り入れていく。
・反復的な問題演習だけでなく、絵を見て問題を作ったり、自分で問題を考えたりする等、学んだことを活用する場面を授業で取り入れていく。

◆３年生◆
・基本的な計算技能や数量関係への理解を高めるために、さらに演習の時間を確保する。
・問題作りや理由の説明など、文章で記述する練習を授業の中に取り入れる。

◆４年生◆
・「数と計算」の領域を学習する際、数直線上の値を読み取る練習に重点を置き、学習を進めていく。
・十進位取り記数法の仕組みを繰り返し指導し理解を促す。
・四則演算の筆算の手順を正しく理解ができるように繰り返し唱えるなどしながら指導を繰り返していく。

◆５年生◆
・ICT 機器を活用しながら、自分の考えを文章にする練習を繰り返す。
・形式的な計算方法を覚えるだけでなく、どうしてその方法が使えるのかの理由を考えるようにする。

◆６年生◆
・問題文の読み取り、アンダーラインを引くなどを徹底する。
・公倍数、公約数の求め方を再確認するとともに、どんな時に使うのかを考えて説明できるようにする。
・授業時間だけでなく、朝の時間等も使って、記述問題の練習に取り組む。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値・区値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■社会科

品川区立清水台小学校
令和４年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

各学年の正答率は、全国値と同程度もしくは上回ることができた。ICT 機器の活用による視覚的に分かりやすい授業を行ってきたことの成果が表れた。また、児童がタブレット端末を活用する調べ学習等に取り組むことで、どの学年も「主体的に学習に取り組む態度」が目標値を上回ることができたといえる。さらに「思考・判断・表現」の正答率を上げるように授業改善を行う。

■学年ごとの具体的な課題（・）原因（◎）と解決策

◆４年生◆
・「地域や市の様子」「生産や販売」では、区の平均正答率を大きく上回るが「市の様子の移り変わり」は全国正答率を下回る数値であった。
・「図書館の役割とその地図記号に関する理解」が目標値を若干下回った。
・「いろいろな店の特徴に関して複数の資料をもとに判断」「火事が起きた時の出動の仕組みについて資料を読み取る」「警察が事故現場で行う仕事について理解」などが目標値を若干下回った。
◎地図記号などの基礎的な知識が十分に定着していない。
◎資料をもとに読み取って判断することが苦手である。

◆５年生◆
・廃棄物処理のルールについて資料から判断する問題の正答率が 41%と目標値を下回った。
・地図に着目して用水工事の困難だった点を捉え、表現する問題の正答率が３１％と目標値を下回った。
・地図や資料の読み取り、表現する力に課題がある。
◎資料の読み取り、読み取ったことを表現することに慣れていない。

◆６年生◆
・日本の国土と人々のくらしの理解を問う問題の正答率が 52%と目標値を下回った。
・日本の工業生産の理解を問う問題の正答率が 65%、資料から判断する問題の正答率が 59%と目標値を下回った。
◎用語の意味などの基礎知識が定着していない。また、資料から適切な情報を見つけ出して読むことや、複合した資料から結論を導き出すことが苦手である。

解決策

◆４年生◆
・身近な具体的事物ではないものから考察したり、資料を読み取って考察したりすることが得意でない傾向があるので、資料を読み解く視点の提示や資料からの類推の学習に計画的に取り組んでいく。

◆５年生◆
・授業で扱う資料を精選し、資料や地図の基本的な読み取り方を確認することを繰り返し行う。
・資料やグラフ、地図の読み取りから分かったことを自分の言葉で表現する機会を計画的に設定していく。
・地図帳や資料集を見る機会を、毎時間の学習に取り入れていく。

◆６年生◆
・資料の読み取りにあたって、課題を明確にしたり、読み取る視点を明示したりすることによって資料活用の力を伸ばす。
・大切な用語や、自らが抱いた疑問点を自分から進んで調べさせる機会を増やす。
・歴史の学習においても、知識の暗記にのみ重きを置くことがないようにし、資料に基づいた仮説や歴史的事象のつながりに目を向けた考察に取り組む機会を増やす。

■次年度の数値目標

・全学年、全領域で全国値・区値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■理科

品川区立清水台小学校
令和４年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

経年比較ではどの学年も上昇していて、すべての項目で全国値・区値を上回った学年もあった。前年度の課題への取り組みが成果を上げたと言える。

その一方で、基礎的な問題、「思考・判断・表現」の正答率が全国値を下回った学年もあった。学年間の差を減らすように学校全体で共有した理科授業への取り組みが求められる。

■学年ごとの具体的な課題（・）原因（◎）と解決策

◆４年生◆
・「太陽の動きをもとに影のでき方を指摘する」ことができていない。
・「水を入れたペットボトルが光を集めたことを虫眼鏡に適用する」ことができない。
・「電気を通すものと通さないもの」を理解できていない。
◎太陽の動き方や、太陽と影の関係などの理解が十分でないこと。
◎身の回りの事象から原理を見出し、それを応用することができない。
◎個々の物質の性質は理解しているがそれを大きなくくりとして一般的にとらえられていない。

◆５年生◆
・「水のすがた」についての知識を問う問題の正答率が２１％と目標値を下回っている。
・月と星の単元では、どの問いも正答率を伸ばすことができなかった。
◎知識をともなった演習問題の経験が不足していた。
◎経験不足から理解につながらない単元が見られた。

◆６年生◆
・雲の動きから、翌日の天気を予想する問題の正答率が56%と目標値を下回った。
・植物の種子が発芽する条件をもとに、種子が発芽するものを指摘する問題の正答率が 62%と目標値を下回った。
・流れる水のはたらきの理解を問う問題の正答率が29%と目標値を下回った。河川敷の橋の下で雨宿りするのが危険な理由を説明する問題の正答率も 41%と目標値を下回った。
◎実験には熱心に取り組むが結果に対する考察する力が低い。
◎実験の条件の意図が理解できていない。
◎用語の意味などの基礎知識が定着していない。

解決策

◆４年生◆
・「理科の学習を通して得た原理と身の回りの事象とを結びつけて、応用的な理解を促す。
・電気を通すものや通さないもの、磁石につくものとつかないものの分類や比較を通じて共通点や相違点に目を向ける中で一般化を行い、正しい知識を身に付けられるよう指導していく。

◆５年生◆
・方位磁針など理科の道具に十分触れさせ、正しい使い方を身に着ける。
・学習したことを身の回りの生活事象と関係づけて考えることを授業の中で意識して行い、実感を伴った学習内容の理解を図る。

◆６年生◆
・実験の方法について子どもが考える機会を設け、実験の意図やどのような考察を考えるのかについて理解を促す。
・「結果」の事実を分析し「その事実からいえる」考察を十分に考えられるような授業展開に重点を置く。
・用語の意味などの基礎知識、まとめを確実に抑える。
・分かったことをもとに日常と結び付けて考え、言葉や文章で表現する機会を設ける。

■次年度の数値目標

・全学年、全領域で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■英語

品川区立清水台小学校
令和４年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

すべての項目において正答率は全国値を上回ることができた。特に活用問題、「書くこと」は、区の値も上回り、授業での取り組みの成果が表れたと言える。今後は、「聞くこと」「読むこと」の領域、「知識・技能」の観点の正答率をさらに伸ばすような具体的な取り組みが求められる。

■学年ごとの具体的な課題（・）原因（◎）と解決策

◆６年生◆

・日常会話の理解（聞く）「道案内についての具体的な情報を聞き取り、その内容を理解する問題の正答率が 47%と目標値を下回った。

◎施設を表す英単語など、日常的に耳にしていないものの理解が不十分と思われる。

解決策

◆６年生◆

・英文の聞き取りの練習や聞き取りながら状況をイメージする練習などを繰り返し行う。

・日本語と結びつきにくい英単語を文脈の中で使いながら意味の理解を深めていく。

■次年度の数値目標

・全領域で全国値・区値を上回る。